江戸川大学学生新聞

THE EDOGAWA TIMES

VOL.5 #3
2015年6月3日(水)

取材／編集：学生記者クラブ
発行：江戸川大学広報センター

2015 江戸川大学生がまいた笑顔の種

流山グリーンフェスティバル開催

ゴールデンウィーク中の5月4日、流山おおたかの森駅南口都市広場で流山グリーンフェスティバル（同実行委員会主催、流山市共催）が開催された。天候にも恵まれ、およそ3万人の来場者でにぎわった。（撮影・取材：照井海人・南波秀亮・溝辺奈菜文：堀越奏美）

流山おおたかの森駅を南口から出て駅前の広場を見下ろすと、花と野菜の苗をとまる。グリーンフェスティバルに先立ち、4月29日から展示されたのだ。今年のテーマ「空飛ぶ?!GREEN PUZZLE」を表現している。ふだんは市民の憩いの場として利用されている広場では、5月4日までの6日間、色とりどりの花絵が多くの人々の心を和ませた。

花絵のデザインは江戸川大学情報文化学科の廣田ゼミが事前に仕上げ、4月29日に設置された。下絵にしたがって、市民と現代社会学科の土屋ゼミの学生たちが花と野菜を置いていく。「指示の仕方や手順を工夫して、年々学生の要領が良くなっている」と廣田有理先生。

今回の花絵は流山市の花であるつつじをイメージしている。だが、テーマがパズルということでデザインの段階から苦労した。お客さんにうまく伝わるかどうか、きれいに見えるかどうかが不安だった。

しかしそれは杞憂に終わり、「とてもきれい」「来年もまた来たい」とフェスティバルに来場した家族連れや年配の夫婦たちは花絵にみとれていた。

花絵の中心にある数人が立てるほどのスペースに入ると、お花畑に立っているような感覚を味わえる。ここは絶好の撮影スポットで、多くの親子が写真を撮っていた。

江戸川大学生と市民が協力して作り上げた花絵が満開の笑顔を咲かせた。

昨年の経験を生かしたクラフト教室

現代社会学科の土屋薫先生と学生はドライフラワーと木の実のクラフト体験教室を開催した。学生たちから手ほどきを受ける親子は始終楽しそうだった。「流山をテーマにしたフィールドワークの実践をする」と土屋先生は意気込む。

「ガーデニングはシニア世代中心なので、子育て世代にもひろめていきたい。まずは庭造りが楽しいということを知ってもらって、ガーデニングを共通の趣味としたつながりが生まれれば嬉しいですね」

昨年は200人分の材料がわずか2時間でなくなり、ピーク時の対応が大変だったため今年は完全予約制にした。そのおかげで前回と比べて余裕が出来た。

「有料でもいいぐらい」「去年つくったものは出来がよかったので今でも飾っている」など、お客さんからも好評だった。

学生記者募集！

学生記者クラブは、学内外のイベントや、部活動、サークル活動などを取材します。
記事は「江戸川大学学生新聞」として発行するだけでなく、ウェブにもアップして世界に向けて発信していくプロジェクトです。
「Journalism」とは「発見や感動を相手に伝えること」。あなたもジャーナリストになろう！

N 棟1階の受付にお気軽に声をかけてください。 連絡先：TEL(04-7152-9908)E-mail(kouhou@edogawa-u.ac.jp) 広報課